

東日本大震災・原子力災害 第3回 学術研究集会プログラム

2025年（令和7年）3月19日（水）～20日（木）

会場：コラッセくしま4階（福島県福島市三河内町1番20号）

3月19日（水）
09:30 受付開始（名札配布、出入記録）
10:00-12:00 登録受付（セッション1）[A・B・C会場]
13:30-13:30 昼食提供（A会場）
13:30-15:30 登録受付（セッション2）[A・B・C会場]
15:40-17:40 登録受付（セッション3）[A・B・C会場]

3月20日（木）
10:00 受付開始（名札配布、出入記録）
10:20-12:00 登録受付（セッション4）[A・B・C会場]
13:30-15:30 登録受付（セッション5）[A・B・C会場]

A会場 4階 多目的ホール
B会場 4階 研修室
C会場 4階 研修室402

19日（1日目）

| 発表者 | 開始時刻 | 氏名 | 所属 | 発表題目 |
|---|---------------|-----------|---|--|
| 1 A | | | | |
| 安田 伸宏（福井大学附属国際原子力工学研究所/東日本大震災・原子力災害伝承館） | | | | |
| 午前・A会場 10:00 | 健康・放射線影響 | AKZHOLOVA | MNagasaki University, Disaster and Radiation Medical Sciences | Temporal Variations in Radionuclide Concentrations in Foods Produced in Tereoka Town within a 20km Radius of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant and the Evaluation of Committed Effective Doses |
| 午前・A会場 10:20 | コミュニティ | ZABROVA | Aizu Nagasaki University | Impact of the discharge of treated water on former residents' intention to return to their home towns around TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Station |
| 午前・A会場 10:40 | コミュニティ | 河 夢奈 | Nagasaki University | Addressing Stigma and Promoting Community Recovery in Post-FDPR Fukushima: FDPR |
| 午前・A会場 11:00 | コミュニケーション | 川 雄 | 長崎大学環境健康学研究所国際医療保健福祉学研究所 | Comparative Analysis of Public Concerns Regarding Treated Water Discharged from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant: Perspectives before and after the Initial Release |
| 午前・A会場 11:20 | コミュニケーション | TERADA | Takeshi 長崎大学環境健康学研究所 | Investigating the Public's Acceptance of Recycling Contaminated Soil in the Areas Where People Live, and the Factors Related to the Public's Acceptance |
| 午前・A会場 11:40 | | | | |
| 1 B | | | | |
| 開沼 博（東京大学大学院情報学環/東日本大震災・原子力災害伝承館） | | | | |
| 午前・B会場 10:00 | 産業 | 橋本 善己 | 東京大学 | 福島復興を再考する—双葉町・大原町・富岡町・浪江町の飲食店に着目して—人々の調達における実態と課題、そのプロセス— |
| 午前・B会場 10:20 | 産業 | 吉田 謙 | 筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院人文社会科学学研究所 | 福島復興を再考する—双葉町・大原町・富岡町・浪江町の飲食店に着目して1）—飲食店事業者の語と実践に準ずる持続性に向けた課題抽出— |
| 午前・B会場 10:40 | コミュニケーション | 井上 天嗣 | 成蹊大学 | 災害影響消滅時代の東日本大震災・原子力災害に対する「科学的復興」——飲食店事業者の語と実践に準ずる持続性に向けた課題抽出—— |
| 午前・B会場 11:00 | コミュニケーション | 河田 隆博 | 白河高等学校 | 高年世代による災害被害の再評価 |
| 午前・B会場 11:20 | コミュニケーション | 松尾 雄乃 | 関西学院大学 | 福島復興における、原子力災害被害者の声と自治体の取り組み、クライシスコミュニケーション上の課題は何か？—令和6年福島沖地震以降 2024年の事例を分析— |
| 午前・B会場 11:40 | 行政・防災対策 | 高巻名悠希 | 常磐大学/VCトレスコアオフィス | 「やまにいばんでばらまきたいわい」が持つ災害弱者への防災意識としての汎用性 |
| 1 C | | | | |
| 山田 修司（東日本大震災・原子力災害伝承館） | | | | |
| 午前・C会場 10:00 | 健康・放射線影響 | 大沼 淳一 | 本来につなげる東海ネット・市民放射能測定センター | 原発事故と放射線被ばくによるリスク論 -低線量被ばくによる健康被害リスクは実質—福島県不明原因で被害者も立ち入りさせないために |
| 午前・C会場 10:20 | 健康・放射線影響 | 石川 洋行 | 明治学院大学 | 3月11日以後の地域社会と科学的知の産生と実践——「科学的復興」をめぐる社会人権者の視点から |
| 午前・C会場 10:40 | 健康・放射線影響 | 伊藤 浩志 | フー・フランス | なぜ復興の社会的決定要因は浸透されてしまうのか？放射線被害の健康被害を正しく評価することが真の復興を促す |
| 午前・C会場 11:00 | 健康・放射線影響 | 八池 俊喜 | 原子力市民委員会 | ポスト311と市民性—原発事故の実態をどう見るか— |
| 午前・C会場 11:20 | 健康・放射線影響 | 藤田 康夫 | みんなのアンケート | 市民放射能測定装置開始調査の結果から |
| 午前・C会場 11:40 | 健康・放射線影響 | 大沼 孝子 | Mina-no Data Site "Takai Net for the Future: Citizen's Radiation Mess | みんなのデータサイト—出雲・タケノコ—福島放射線モニタリングプロジェクト結果について—「測って判断」のすすめ— |
| 2 A | | | | |
| 葛西 優香（東日本大震災・原子力災害伝承館） | | | | |
| 午前・A会場 13:30 | コミュニケーション | 多田 健太 | 東京大学大学院 学際情報学府 | 「災害を伝える」というコミュニケーション過程に関する研究 |
| 午前・A会場 13:50 | コミュニケーション（防災） | 山田 謙也 | 東京工業大学 | 大規模災害発生後社会の心理的変化のメカニズム—一次災害— |
| 午前・A会場 14:10 | コミュニケーション（防災） | 佐藤 公 | 福井県山崎地区 | 災害伝承と語り—磐梯山の火山災害とジオパークから考える— |
| 午前・A会場 14:30 | コミュニケーション（防災） | 小原 直輝 | 関西学院大学社会学部社会学科 | 原発事故後のまちづくりにおいてどこに住民が参加できたか——双葉町の復興まちづくり計画（第一次）における住民参加の分析—— |
| 午前・A会場 14:50 | コミュニケーション（防災） | 小林未理菜 | 福島県立総合高等専門学校 | 「震災体験と語り」の復興から考える震災伝承について |
| 午前・A会場 15:10 | コミュニケーション（防災） | 葛西 優香 | 東日本大震災・原子力災害伝承館/東京大学大学院情報学環 | 復興過程のまちづくり——語りからの発信—— |
| 2 B | | | | |
| 松本 紀都美（長崎大学原爆健康影響学研究所/東日本大震災・原子力災害伝承館） | | | | |
| 午前・B会場 13:30 | コミュニケーション（教育） | 牧田 美江 | 東京大学 | 技術士「原子力・放射線部門」の制度変遷とその問題点の分析 |
| 午前・B会場 13:50 | コミュニケーション（教育） | 山田 泰洋 | 福島大学 | 原子力と主眼としたSTEM教育を推進する高校生の持つニーズと実際の課題 |
| 午前・B会場 14:10 | コミュニケーション（教育） | 岡田 彩乃 | 会津学院大学地域学協働学際学際学 | 博覧強識の防災教育の意義—防災教育で育まれる力と学習指導要領・キャリア教育との関連性— |
| 午前・B会場 14:30 | コミュニケーション（教育） | 岡田 裕 | 東北大学大学院国際研究科 | 震災デジタル社会と教育実践の未来—デジタル活用プラットフォーム—学校教育のデジタルトランスフォーメーションのための実践と研究の展望— |
| 午前・B会場 14:50 | コミュニケーション（教育） | 平井 俊秀 | 大阪府立長尾高校 理科研究部 部活動指導員（アルバイト） | 福島県卒業生に関する STEM 教育教材の開発—原発・多量防護、電気料金、意識決定、放射線汚染の被害者の権利、ロールプレイ、ディベートを中心に— |
| 午前・B会場 15:10 | コミュニケーション（防災） | 松本紀都美 | 長崎大学原爆健康影響学研究所 | 福島県活動する語り部の特徴と困難性に関する要因 |
| 2 C | | | | |
| 静岡 健人（東日本大震災・原子力災害伝承館） | | | | |
| 午前・C会場 13:30 | 健康・放射線影響 | 福原まどか | 関西大学、社会安全学部 | 自己による災害関連死の発生プロセスに関する一考察 |
| 午前・C会場 13:50 | 健康・放射線影響 | 伊田 香音 | 関西大学、社会安全学部 | 東日本大震災後の福島県における避難先で発生した被害の分析 |
| 午前・C会場 14:10 | 健康・放射線影響 | 松崎 佑哉 | 長崎大学原爆健康影響学研究所 | 福島第一原発事故後の公衆のメンタルヘルスと放射線リスク認知との関連 |
| 午前・C会場 14:30 | 健康・放射線影響 | 松本 佐幸 | 関西大学、社会安全学部 | 災害関連死と生活動向の移動に関する一考察—東日本大震災における福島県避難者に関する事例— |
| 午前・C会場 14:50 | 健康・放射線影響 | 山崎 純史 | 福島県立医科大学、放射線健康物理学講座 | 福島第一原発事故発生後、その後の避難者の健康 |
| 午前・C会場 15:10 | 健康・放射線影響 | 清水 亮樹 | 東北福祉大学 | こども期の被災経験が家族制度に与える影響に関する研究—中東生時代に東日本大震災で被災した若者たちの語りから— |
| 3 A | | | | |
| 除本 理史（東日本大震災・原子力災害伝承館/大阪公立大学） | | | | |
| 午前・A会場 13:40 | 行政・防災対策 | 奥嶋 佑介 | 関西大学大学院、社会安全研究科 | 津波避難開始における住民の判断特性の違いを考慮した避難行動の数理解析 |
| 午前・A会場 14:00 | 行政・防災対策 | 大沼 謙也 | 東京大学 | 放射性物質汚染リスク評価と地域自治体の対応—自治体からの検討— |
| 午前・A会場 14:20 | 行政・防災対策 | 立野 空琉 | 東北大学 | 福島県原子力災害被災地で母体的な災害への備えに課題が生じていることと検証とその原因の把握 |
| 午前・A会場 14:40 | コミュニティ（防災） | 山田 修司 | 東日本大震災・原子力災害伝承館 | 震災伝承施設は観光対象か？2024・2025年ウェブ調査報告 |
| 午前・A会場 17:00 | コミュニティ（防災） | 除本 理史 | 九州大学、共同研究部 | 震災体験の語りの方と時間の構造—福島県双葉町での語り部と併歩きの事例から— |
| 午前・A会場 17:20 | コミュニティ（防災） | 除本 理史 | 大阪公立大学大学院経営学研究所 | 福島県発祥における民間防災活動の活用促進—地元メディアと連携した取り組み— |
| 3 B | | | | |
| 中山 千尋（福島県立医科大学） | | | | |
| 午前・B会場 15:40 | 健康・放射線影響 | 中村 美穂 | 東北大学大学院 | 原子力災害時に指定場所の汚染検査を行う装置のβ線源を用いた評価 |
| 午前・B会場 16:00 | 健康・放射線影響 | 岩崎 洋亮 | 福井大学 | 人受シミュレーションを用いた原子力災害避難時の事故後被ばく線量モニタリング体制の検討 |
| 午前・B会場 16:20 | 健康・放射線影響 | 河田 真子 | 東北大学大学院国際研究科 | 被災に際した避難者が被災地内放射能測定に及ぼす影響に関する基礎的検討 |
| 午前・B会場 16:40 | 健康・放射線影響 | 岡田 彩乃 | 東北大学、バムツカレ大学名誉教授 | 被災地放射能の読み |
| 午前・B会場 17:00 | 健康・放射線影響 | 中山 千尋 | 福井大学 | 東電福島第一原発事故発生日における時空間情報の統合による放射線防護対策の検証（2） |
| 午前・B会場 17:20 | 健康・放射線影響 | 中山 千尋 | 福島県立医科大学 | 「低レベル放射線曝露と自己症状」有病率の関連に関する疫学調査—この調査は双葉町での暴息を計測していない— |
| 3 C | | | | |
| 吉田佳乃子（福井大学） | | | | |
| 午前・C会場 15:40 | 健康・放射線影響 | 緒方 良至 | 愛知医科大学 | ケイ酸バリウムを主成分とするストロンチウム吸着剤の吸着特性 |
| 午前・C会場 16:00 | 健康・放射線影響 | 佐藤 拓 | 東北大学理学部情報科学研究所 | 原子力災害に起因する低線量放射線（X線）の生物学的指標に関する検討 |
| 午前・C会場 16:20 | 健康・放射線影響 | 秋津 彩乃 | 東北大学大学院 | 住民用個人線量計設置に関する基礎的検討 |
| 午前・C会場 16:40 | コミュニケーション | 河野 悠希 | 一般社団法人 日本保健物理学会 | 福島第一原子力発電所事故後のウェブサイトを「専門家」が伝える暮らしの放射線（R&A）の活動内容分析と得られた教訓—この経験を未来に伝えるために— |
| 午前・C会場 17:00 | コミュニケーション | 藤井 優希 | 東京大学 | SDGs時代の放射線リスクコミュニケーションを考える—東日本大震災を振り返る— |
| 午前・C会場 17:20 | 健康・放射線影響 | 吉田佳乃子 | 福井大学 | 東電福島第一原発事故発生日における時空間情報の統合による放射線防護対策の検証（3） |

20日（2日目）

| 発表者 | 開始時刻 | 氏名 | 所属 | 発表題目 |
|---|-----------|------------|---|---|
| 4 A | | | | |
| 橋本 真典（大阪経済大学） | | | | |
| 午前・A会場 10:20 | コミュニティ | 伊東 尚美 | 福島県立医科大学原子力放射線健康学管理学講座 | 東日本大震災後の相馬湾岸地帯は被災高齢者の生活再建にどう貢献したか——長屋入居者32人へのインタビュー調査—— |
| 午前・A会場 10:40 | 産業 | 藤原 隆乃 | 福島大学 | 震災前後における福島県産日本酒の流通構造の変化とその特徴—遠藤隆乃・小山良次 福島大学農学研究所 福島大学農学学術 |
| 午前・A会場 11:00 | コミュニティ | 山田 拓実 | 東北大学大学院社会学研究科修士課程2年 | 被災したコミュニティにおける「社会関係」の再形成の困難 |
| 午前・A会場 11:20 | 産業 | 山田 拓実 | 東京大学大学院 | 風通り中4階のサブライエーションに関する実証と課題—浪江町の飲食店を対象としたケーススタディ |
| 午前・A会場 11:40 | コミュニティ | 橋本 真典 | 大阪経済大学 | 原子力発電所の立地地域における地域人口人口増減 |
| 4 B | | | | |
| 阿部 あや（東京大学大学院情報学環） | | | | |
| 午前・B会場 10:00 | コミュニケーション | 静岡 健人 | 東日本大震災・原子力災害伝承館 | 東日本大震災・原子力災害に関する社会課題への人々の関心の風化—東北3県と3大都市圏の在住者を対象としたWBS調査データを用いて— |
| 午前・B会場 10:40 | コミュニケーション | 矢内理子 | 同志社大学 人文科学研究科 | 『前日新聞』『毎日新聞』の福島第一原発事故報道—著名記者からみた地方支助の記者の働き— |
| 午前・B会場 11:00 | コミュニケーション | 中込 達也 | 東京大学大学院情報学環教育部 | 「SNSネイティブ世代」の情報行動と防災 |
| 午前・B会場 11:20 | コミュニケーション | 原田 理沙 | 慶應義塾大学 | 東日本大震災・原子力災害の経験者が語ること—語り部の語りへの分析— |
| 午前・B会場 11:40 | コミュニケーション | 阿部 あや | 東京大学大学院情報学環 | 農協の災害対応に組合員の帰属意識——いわき県における組合員ロイヤリティ調査から—— |
| 4 C | | | | |
| 横 清司（東京大学大学院情報学環） | | | | |
| 午前・C会場 10:20 | 健康・放射線影響 | 鈴木 正敏 | 東北大学 | 福島第一原発事故で生じた不溶性セシウム粒子による細胞影響解析 |
| 午前・C会場 10:40 | 健康・放射線影響 | 山本 登介 | 東北大学大学院 | β線を用いたラジウムシミュレーションシステムにおけるγ線影響の検証——β線サーベイメータ、NaI(Tl)シンチレーションサーベイメータとの比較—— |
| 午前・C会場 11:00 | 行政・防災対策 | 河野 高博 | 人と防災未来センター | 防災リスクの軽減—避難誘導—市町村の防災 |
| 午前・C会場 11:20 | 行政・防災対策 | 榎野日向子 | 京都大学大学院 | メンタルモデルを用いた原子力災害広域避難計画の策定プロセスにおける利害関係者のコミュニケーションの評価 |
| 午前・C会場 11:40 | 行政・防災対策 | 横 清司 | 東京大学大学院情報学環 | 東日本大震災と原子力災害からの長期復興課題にある行政組織で働く職員のモチベーション要因の分析 |
| 5 A | | | | |
| 小山良次（東日本大震災・原子力災害伝承館/福島大学農学学環） | | | | |
| 午前・A会場 13:30 | コミュニケーション | 折井 李浩 | 大田高等学校 | 福島第一原発事故の除去と課題におけるメディア報道の特徴と認知への影響 |
| 午前・A会場 13:50 | コミュニティ | 伊藤 美生 | 東日本大震災・原子力災害健康リスク研究員、青山学院横浜キャンパス | 福島県双葉町におけるご当地キャラクターの役割と住民とのつながりの変遷 |
| 午前・A会場 14:10 | コミュニティ | 加藤 雅高 | 福島大学 | 原子力災害被災地における居住者の検証分析 |
| 午前・A会場 14:30 | 産業 | 八島 祐乃 | 福島大学農学学環 | ナンの輸出における輸出相手国の消費ニーズ——いわき市産ナンのペタンク輸出を対象に—— |
| 午前・A会場 14:50 | コミュニティ | 藤原 隆乃 | 一橋大学大学院社会学部社会学科 | 福島第一原子力発電所の周辺住民の生活 |
| 午前・A会場 15:10 | 産業 | 藤原 彩夢 | 福島大学農学学環 | パッケージに対する消費意識調査——いわき市産トマトのブランド化に向けて—— |
| 5 B | | | | |
| 安本真由（東日本大震災・原子力災害伝承館/東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター） | | | | |
| 午前・B会場 13:30 | コミュニティ | 三浦 雅哉 | 東京大学大学院情報学環 | 2018年以降のロケーションデータから読み取る福島県双葉郡町村の時空変化 |
| 午前・B会場 13:50 | コミュニティ | 橋 浩博 | 大阪大学大学院社会学研究科 | 福島県双葉町地域の移住と地域自治体の課題と可能性 |
| 午前・B会場 14:10 | コミュニケーション | INO Kazuko | Louis Pasteur Center for Medical Research | 避難先、汚染地、トリウム、helium3による議論の再考——肯定、否定、内容の推移—— |
| 午前・B会場 14:30 | コミュニケーション | 長崎 忍 | 福島大学システム理工学環 | ALPS処理水に関する換気作品の特性分析 |
| 午前・B会場 14:50 | コミュニケーション | 林 智裕 | 東日本大震災・原子力災害伝承館/ジャーナリスト | 風評調査とインフルエンサーオペレーション——除染パブリックコメントに関するSNS投稿の分析—— |
| 午前・B会場 15:10 | コミュニケーション | 安本 真由 | 東日本大震災・原子力災害伝承館/東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター | 東日本大震災前後の「福島」に関する空想日本地図の差分分析—原子力災害に関するキーワードに着目して— |
| 5 C | | | | |
| 中丸 和（大阪大学大学院/東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター） | | | | |
| 午前・C会場 13:30 | 行政・防災対策 | 健 康和 | 東京大学大学院 | 広域線を用いた東日本大震災における「2次避難」に関する探索的研究 |
| 午前・C会場 13:50 | 行政・防災対策 | 藤田 莉緒 | 福島大学 | 農業従事者の被災復興に関する一考察—福島県いわき市における令和元年東日本台風を事例に— |
| 午前・C会場 14:10 | 行政・防災対策 | 森野 明子 | 宇都宮大学 | 外国人を含む地域防災のあり方とその検討——宇都宮市、仙台市、及び熊本市における事例調査を通して—— |
| 午前・C会場 14:30 | 行政・防災対策 | 河野 真之 | 東日本大震災・原子力災害伝承館 | 東日本大震災における避難先での被災者への支援 |
| 午前・C会場 14:50 | 行政・防災対策 | 三好 美晴 | 京都教育大学附属京都府立中学校 | 自家消費車を使用した長期的避難の現実と求められる支援策の検討 |
| 午前・C会場 15:10 | 行政・防災対策 | 中丸 和 | 大阪大学大学院/東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター | 災害時の教員加配活用施策が教員の「働つた」に与えた影響—原子力災害下における専門家としての教員の葛藤と覚悟に着目して— |